

# キンメダイの資源回復に向けた 種苗生産技術の開発

(予算区分 受託 研究期間 2022 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 伊豆分場 吉川康夫  
深層水科 稲葉晃誠

## 【研究の背景とねらい】

- ・本県のキンメダイ水揚量は最盛期（7,844 トン）の 1984 年以降、減少傾向に転じ 2022 年には 1,183 トンとなりました。太平洋系群の資源量は 2000 年前半まで 4 万トン台でしたが 2010 年前半に減少傾向を示し、2022 年には 33.2 千トンとなっています。資源回復に向けて漁業者は自主的に資源管理に取り組んでいます。
- ・漁業者は種苗放流による資源増大に期待を寄せています。県は第 8 次栽培漁業基本計画で研究対象魚種と位置づけており、研究の第一段階として種苗生産技術の開発を目指します。

## 【これまでに得られた成果】

- ・麻酔を活用し釣獲した親魚を活かして研究施設まで輸送する方法、搾出卵の洗浄方法、精液の冷凍保存技術の開発により、人工授精の作業が効率化され受精卵が安定して得られるようになりました。
- ・受精後の飼育水温を検討したところ、受精は 10℃、卵発生中は 15～20℃、ふ化は 20℃、仔魚の飼育は 20～25℃が適していることがわかりました。
- ・深層水を用いて親魚の長期飼育を行い、ホルモン投与による成熟誘起を行ったところ、雌の GSI 増加と卵巣の発達を確認しました。
- ・東京海洋大学との共同研究により、夜半前に捕獲した親魚から船上人工授精で得られた仔魚を大学の飼育施設（館山市）で飼育したところ、最長で 33 日間の生存を確認しました（過去の生存記録 20 日間を更新）。



採卵用に確保した親魚



33 日齢の仔魚

## 【期待される効果】

- ・栽培漁業の推進によって、積極的な資源回復の取り組みが可能になります。
- ・飼育試験で得られた知見は、キンメダイの初期生態の解明への貢献が期待されます。

## 【今後の計画】

- ・良質卵を得るための親魚捕獲方法を再検討し、安定的な受精卵の確保を目指します。
- ・深層水を使った長期養成で、雄の成熟促進と雌の最終成熟の解明に取り組めます。
- ・ふ化後の仔魚飼育において、初期餌料や給餌方法を検討するとともに、飼育環境の最適化を図り、生残率の向上と長期間の飼育を目指します。

(作成 2024 年 4 月)